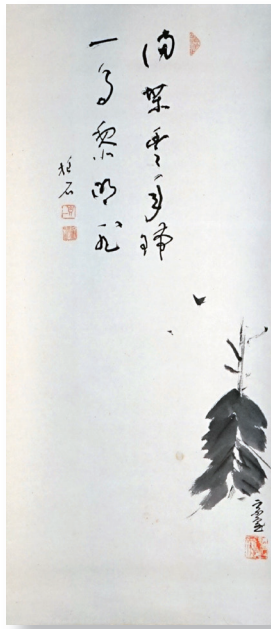




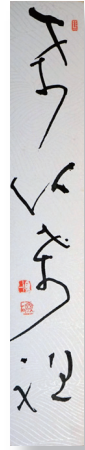
「死在巖根骨也清」抱石



「稲架図」淡々斎画・抱石賛



「無」白隠慧鶴
(展示期間
5月2日～5月6日
ただし、展示期間以外は
複製を展示)



「殺仏殺祖」抱石



「隻手」白隠慧鶴
(展示期間
4月27日～5月1日)



「離有無」抱石



「如意図」抱石



参考出展
茶入 銘 残雪
茶碗 銘 孟八郎
茶杓 銘 白蓮
水指

《久松真一氏 略歴》

- 明治 22(1889)年 岐阜市長良で大野定吉の長男として生まれる。
- 明治 45(1912)年 京都帝国大学哲学科に入学。
西田幾多郎の哲学、鈴木大拙の禅学に影響を受け、東洋哲学、仏教、日本思想を研究した。
- 大正 8 (1919)年 臨済宗大学(現・花園大学)教授。
- 昭和 4 (1929)年 龍谷大学教授を兼ねる。
- 昭和 16(1941)年 京都大学心茶会を設立。
- 昭和 19(1944)年 京都大学学道道場を創立。(のちに「FAS協会」と改称される。)
- 昭和 21(1946)年 京都帝国大学教授、京都大学教授。
- 昭和 24(1949)年 大学定年退官後、花園大学教授。
- 昭和 27(1952)年 花園大学教授退官、京都市立美術大学教授。
- 昭和 32(1957)年 ロックフェラー財団の援助を受け渡米、ハーバード大学神学部客員教授として「禅と禅文化」を講義。
- 昭和 33(1958)年 米国からヨーロッパへと渡り、マルセル、ハイデッガー、ユングなど哲学者、思想家と交流、講演会を催し、東洋の哲学、文化の紹介に努める。
- 昭和 37(1962)年 春光院より京都室町に移居。
- 昭和 49(1974)年 岐阜市長良福光に移居。
- 昭和 55(1980)年 同地で没。

岐阜県を代表する哲学者で、茶人でもある久松真一氏を紹介する記念館「久松真一記念館・抱石庵(国登録有形文化財)」の移動展です。久松真一は、京都帝国大学哲学科在学中師事していた西田幾多郎から「抱石」の号を授かり、昭和 49 年帰郷後没するまで過ごした自宅を岐阜の「抱石庵」と呼びました。今回は、久松真一の遺墨、遺愛の茶碗のほか白隠、西田幾多郎の書画、同氏と交流があったハイデッガーや湯川秀樹、柳宗悦、イサムノグチらの書簡など 60 点を通して、「知の巨人」久松真一の世界に迫ります。

交通案内



休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合はその翌平日)
年末年始(12月29日～1月3日) ※ただし、4月27日(土)～5月6日(月)は開館
入館料 無料(ただし、博物館本館の展示を観覧される場合には、所定の入館料が必要です。)
時間 4月～10月 9:00～16:30 11月～3月 9:30～16:30 (入館は16:00まで)

- ・東海北陸自動車道 関インターから車で5分
- ・岐阜バス(小屋名バス停下車 徒歩約20分)
※岐阜駅方面からは、岐阜バスバスターミナル又はJR岐阜駅14番乗り場でご乗車ください。(岐阜関線、岐阜美濃線)
※関駅からは、関駅西側の関シティバスターミナル停からご乗車ください。(岐阜関線)
- ・関シティバス(百年公園バス停下車 徒歩約5分)
※関駅からは、関駅西側の関シティターミナルバス停からご乗車ください(わかさ・小金田線、わかさ・千疋線)

